



小・中学校のすべての教員に向け、  
複式教育通信「WakaFuku」を発行します！

#和歌山県における複式教育の現状  
#複式学級の編制基準 #複式学級の強み  
#小学校複式学級による学力スコアへの影響

県内では、児童生徒数の減少により複式学級が増加しており、初めて複式学級の指導にあたる教員も増加しています。初めての複式学級担任にとまどっている教員や経験を重ねても悩んでいる教員は少なくありません。

このような現状を踏まえ、県内の複式教育の充実を推進する取組の一つとして、本通信「WakaFuku」を発行しました。

「WakaFuku」が、複式教育に関わる教員はもちろん、単式学級で指導にあたる教員等にとっても授業づくりのヒントになるような情報を発信していきます。

## 和歌山県における 複式学級の現状

小学校  
72校／222校

中学校  
12校／113校

※学校運営上、複式解消を行っている  
場合もあります。

本県の「令和8年度小・中学校学級編制基準」は、以下のとおりです。

| 区分     | 小学校                           | 中学校          |     |
|--------|-------------------------------|--------------|-----|
| 単式学級   | 35人                           | 第1学年         | 35人 |
|        |                               | 第2学年<br>第3学年 | 40人 |
| 複式学級   | 16人<br>(ただし、第1学年を<br>含む場合は8人) | 8人           |     |
| 特別支援学級 | 8人                            |              |     |

※小学校には義務教育学校の前期課程を、中学校には義務教育学校の後期課程を、それぞれ含む。

## 複式学級について、こんなことでお悩みではないですか？

直接指導が必要な  
場面で、適切に指導  
ができない。

学習活動をどこまで  
こどもに委ねればよ  
いかわからない。

2学年分の教材  
研究が大変だ。

単元計画の  
組み方が難しい。

こどもが自分で授業を  
進められるようになる  
手立てが知りたい。

単式学級の先生も、同じ  
ようなことで悩んでいる  
のではないのでしょうか。



## 複式学級には、こんな「強み」が！

- こどもが自ら学習を進めることで、**主体的な学び**が実現しやすい。
- 一人一人に役割を与えることができ、こどもの**自主性**が育まれやすい。
- 異学年交流**で学びを深められる可能性がある。
- 少人数で一人一人を見取りやすく、**個に応じた指導**を実現しやすい。

## 『小学校複式学級による学力スコアへの影響』

複式学級における学力への影響は気になりませんか。

「国立教育政策研究所紀要 第149集 令和2年3月『小学校複式学級による学力スコアへの影響』」の中で、「複式学級の学力スコアへの明らかにネガティブな影響は見られない。」という知見が述べられています。

詳細は、右の二次元コードからご確認ください。



詳細はこちら

## 複式教育の充実に係る研修会

☆日時・場所

7月27日(月) 13:00～16:30

田辺市立大塔公民館

☆対象

複式学級を有する小学校の教員

☆講師

高知大学教育学部附属小学校 教諭

国立大学法人高知大学大学院 教授

田中 元康 氏

## 編集後記

「WakaFuku」第1号はいかがでしたか。和歌山県教育委員会では、「WakaFuku」での情報発信の他にも、「複式教育の充実に係る研修会」「複式授業セミナー」を予定しています。

複式学級の授業づくりは、次期学習指導要領で求められる授業づくりと相似形であると考えています。単式学級で行われる授業に加え、複式学級ならではの少人数、異学年集団の強み等を生かすことで、次期学習指導要領の3つの方向性、「『主体的・対話的で深い学び』の実装」、「多様性の包摂」、「実現可能性の確保」の実現を県全体で推進していけると考えています。

「主体的に学び続けるこども」の育成を目指した授業づくりを推進していきましょう。



本通信のデータ  
閲覧はこちらから